





Ш 会 長 8 A 7 (会

VZ. 日(木)) 学の教授に就任され、八月に来分するという情報が入った号に掲載済み)が、このたび大分市一木にある日本文理大長平山善吉さん(会長選任についての詳細は「山」の六月長平山善古さん(会長選任についての詳細は「山」の六月

さっそく事務局では新会長と連絡をとり、

府内町の「百科亭」において東九州支部主催の新

王催の新会

長の歓迎会をとり行いました。

風四号の影響での雨の中、会員、

会友二四名の参加のもと、

そして台

当日は今夏の異常気象の象徴である冷夏長雨、

の交流がこうしてできたことに感謝したいと述べられましと述べ、その意味では自分が就任して初めて、地方支部とと関わりを重視し、支部に視点を置いて進めていきたいいること、また会の運営に当たってはできるだけ地方支部年後の創立百周年を迎えるべく、その準備に鋭意努力して の宴会の席へと移りました。 た。そして、 て平山新会長があいさつされました。その中で我が会は二べ、さらにようこそ東九州支部へと歓迎のあいさつ。続い 楽しい有意義な一時を過ごされました。 た。或る者は自分の山歴を述べ、或る者は新会長にエー介を兼ねた新会長へのメッセージを述べることとなりま て、歓迎ムードの高まるなか、参加者一人ひとりが自己バックには「平山善吉先生歓迎」と書かれた幕が用意さ まず梅木支部長が新会長に就任されたお祝 また或る者は会の百周年に向けての期待を語る 最長老の安藤会員の音頭で乾杯の後、 或る者は新会長にエ い の言葉を述

しば

る

《 もくじ 》	
平山会長歓迎会	1
妻子ガ鼻・南外輪山	2
蛇越岳・立石山	3
黒岳・黒木山・玖珠山	3
竜ガ鼻	5
全国支部懇談会報告	. 6
紅葉の鹿納山	6
私の無名山ガイドブック(3)	7
お知らせ	8
後記	8

ました。
ました。
ました。
ました。
ました。

終わって会場を後にする頃には、外はドシャブリの雨となっため、あわただしく引き上げていました。その中を支部長はでいました。その中で新会長は「登山を文化として広めて行きたい」と抱負を語っておられました。ご一読下さい。

報告加藤英彦

ぐらいで着けた場所である。 と登山口を探して約一時間ぐらいかかったであろう、やっと と登山口を探して約一時間ぐらいかかったであろう、やっと は受力と思われる牧野道の終点 に到着。天気が良ければ二〇分

な山に登った表情で撮影に臨む。山頂での儀式を終え、次の分水嶺、長谷峠へ向かう。今でも土葬を行うという『清水寺』を上葬を停め歩き始める。外輪山に車を停め歩き始める。外輪山のゆるやかな稜線上のアップダウンの道である。早朝の霧は次第に晴れ上がってきたが、靄に第によびってきたが、靄にかすんで遠景は見えない。

清水峠から約二km、一〇時 二〇分に長谷峠に到着。峠を示す案内はない。ここで少し早い を食となる。遠江さんの恒例の リーメンをみんなで頂く。予定 ではここから全員引き返すこと になっていたが、佐藤先生、石 になっていたが、佐藤先生、石 になっていたが、佐藤先生、石

(7月月例山行報告)

サニーを五時に出発してきた

児

玉

章

良

我々三名が車を中坂峠へ廻すこ

明き返す途中、すっかり晴れ 一ムを食べて、一行が中坂峠へ 一ムを食べて、一行が中坂峠へ 一ムを食べて、一行が中坂峠へ 着くころを見計らって迎えに行



(長谷峠にて)

分水嶺その3

山公園内の『炭焼地鶏の店 らいたことか。(妻子ケ鼻は箱石のたことか。(妻子ケ鼻は箱石のたことか。(妻子ケ鼻は箱石のたことか。(妻子ケ鼻は箱石のたことか。(妻子ケ鼻は箱石のたことか。(妻子ケ鼻は箱石のから高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、らくだっかく高森に来たなら、

う。) 森田楽の里 NO 096676-2-1899』 森田楽の里 NO 096676-2-1899』

長谷峠から

なっている。

佐藤さん、石川さん、児玉さんの三名が清水峠へ引き返し中んの三名が清水峠へ引き返し中な峠へ車を廻して下さる間に、 で進むこととなった。一〇時五 で進むこととなった。一〇時五 を登り、稜線に出るとアップダ やかが続く。九三七mの標高点 ウンが続く。九三七mの標高点 を通過すると緩い下りのあと崩

時刻は一一時二五分、ここは 時刻は一一時二五分、ここは にめ、咲き始めたその白い花 ない 大き 通過し、緩い下りとな たった である。マタタビやサルナシな が目に かくと カーセ・ニーの 三角 どの実の吊り下がる樹々 である。 稜線にノリウツギが目立ちる。 稜線にノリウツギが目立ちる。 でき かった はじめ、 咲き 始めたその白い花 が目につくようになる。

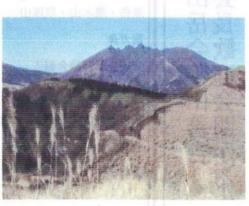
そしてやがて視界が開けて左 (南)側は草原の変わる。前方 の稜線が遠くかすんで続いて見 の稜線が遠くかすんで続いて見 える。道脇にはギボウシやキツ える。道脇にはギボウシやキツ える。道脇にはギボウシやキツ れい変を見せ、快適な草原の稜線 が姿を見せ、快適な草原の稜線

緩い下りが続き、青い牧草地

の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下りとが続いているが、左は少し先がが続いているが、左は少し先がが続いているが、左は少し先がが続いているが、左は少し先がが続いているが、左は少しながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながら下の中の大きくカーブしながらかりという。

を持ち、少し経って佐藤さんのを待ち、少し経って佐藤さんのを待ち、少し経って佐藤さんのはでしばし休憩して車の着くの峠でしばし休憩して車の着くのにない。

この部分文責飯田



(根子岳と外輪山

分水嶺その4

岳

八月 月例山行報告)

重

康 夫

に道を取り、 合流した。その少し先で車は右 田ノ池の駐車場で、 トイレ休憩をとった。さらに小 中水分峠で児玉先生と合流し、 分乗して、サニー前を出発。途 七人が三台の車で 立石池のほうへ向 遠江さんと

て実に気持ちが良かった。 たためか、最近多い霞んだ景色 うに思う。また風がすこしあっ めて雨具の要らない山だったよ 参加した月例山行では、今年初 のほか天気が良く、最近の私の 天気不良と思っていたが思い 山の緑がしっかり見え

となる稜線を登っていく。 田さんが道を作りながら尾根を りほぼ藪こぎ状態となった。飯 車を止めて、出発した。八八〇 mに高度計をあわせた。いきな 七時三九分、立石池のそばに 右は大分川、左は筑後川

をつけながら登った。また安部 林になり、テープで下りの目印 途中植林部があるがすぐ自然

> りが怖くて登る気にならないル 気がする。また一人では後の下 とてもまともに下れそうにない っていった。これらが無いと、 さんは、なた目をつけながら登 トでもある。

決めながら、ラッセルといっし よで大変だったと思う。 とはなかったがトップは、道を 最後尾だったのでたいしたこ

かった。展望はほとんど望めな 点がないか探したが見つからな が標識を立てていた。あたりで い山頂であった。 三角点はなく、標点か四等三角 いた。そこにどこかのグループ 八時二二分、蛇越岳山頂に着



が、さすがベテラン揃いで、 が見つけにくいところがあった を撮ったあと出発。一度テープ なくクリアし、九時一四分、 時二八分、山頂で記念写真 (蛇越岳山頂にて)

> ひだりに捲き、さらに尾根を進 やね」と言っていた。この岩を が「これは懸垂下降にぴったり んでいった。 すぐ大きな岩があり、 西さん

り歩きやすく、夏の鶴見山系の 扇山―内山の縦走道より良好な この尾根は道は無いが、かな

けながら、文字通りの藪漕ぎを していった。 がら、そして道なき道をかき分 図と磁石を見ながら、また木々 ここから立石山への稜線は、通 の間から見える立石山頂を見な りやすそうなところもなく、地 当に歩きやすいルートだったが、 一〇〇三mのピークまでは本

はなく、写真のような道なき道 の道を引き返す気になれなかっ た。杉を伐採しているものの道 番大変だったと思う。誰もがこ トップの飯田さんはここが一

行くルートを選んだ。 そこから尾根を通って立石山へ 初一〇〇三mのピークを目指 を置いた場所に降りつい 次の立石山へは合議の上、最

らかな登りを進んだ。 強になった。九時二八分、車道言ったのが、印象に残ったし勉 西(左)に道をとり、 から取り付き、藪こぎをはじめ ずルートをイメージして・・と ピークと地図を眺めながら、 た。尾根筋まで北上して、すぐ 飯田さんが車道から入る前、 ややなだ ま

感じがした。

を進んでいった。



後にする。 の音頭で万歳。ここで食事休憩 三等三角点を見つけ、児玉先生 西先生万歳と号令をして山頂を し記念写真をとり、西さんが今 一〇時四五分、立石山頂到着

ウを見つけた。 いかれた。途中フシグロセンノ これまでとは比べものにならな いくらい楽で、ずんずん降りて テープに沿った下りのルートは 都合よく立石山山頂すぐ下から一一時二五分降り始めたが、 れを伝って降りることに決めた。 しっかりしたテープがあり、こ

江、中野、長野、 参加者…安部、飯田、 (八月三一日) 西 児玉、 八重、 渡遠

りついていた。

一時四二分にはもう車道に降

分水嶺その5

(九月月例登山報告)

と奥さんが出てきた。 と暗闇に人の影。「寝坊した」 てみようとドアをノック。する と思ったけど、もう一度たたい 五時集合だったんだと帰ろうか をたたいても人の気配はなく、 店は暗く人の気配がない。ドア に行ってみようと行ってみると、 それでは真ん中をとって五時半 時と書いてあったような・・・。3 なくて、いつもは五時だけど六 サニーを何時に出発だか憶えて のまま参加させていただいた。 合があり帰省していたので、そ た。前日に大分トリニータの試 て以来、久しぶりの参加となっ 四月に転勤で福岡に引っ越

はいつも遅れるからねぇ」とい 来るらしいが、出発時間が近づ 後もう一人、阿南さん。家族で のお寝坊。そうこうしている内 く起きるのが遅れただけ。久々 つもの口調で過去の出来事を暴 いているのに来ない。「あの人 に飯田さん、安部さんが来た。 出発時間に遅れたのではな

露しながらしゃべっていたら電

を少し過ぎた日出生台へ入る三 叉路として出発。 落ち合う場所を湯布院の市街地 案の定、阿南さんからの電話 「今から出発する」とのこと。

行止めの看板がある。そこを通 ならない。 らないと玖珠まで行かなくては ンビニに買い物に行っている内 三叉路に到着。私と奥さんがコ にはこの先のダムが工事中で通 に阿南さん一家も到着。三叉路 ちょっとで待ち合わせ場所の 店から出発した四名は、一 寺

その先が頂上。

歩くとテレビの中継所が現れて、 ものがある。およそ二〇分ほど りづらいながらも登山道らしき

の牧場につく。 沿いに一五分ほど進めると黒岳 左手は日出生台演習場。演習場 れてなかった。ダムを過ぎると だったので、 問題のダムが現れるが、日曜日 なり日出生台へと進む。やがて 「とりあえず行ってみよう」と 運良く工事が行わ

思いつつ子供に尋ねると、「目 ルを付けるといいかも」と笑い 阿南さんが答える。なるほどと のと間違えてるのではないかと のゴーグルをつけ、 すぐ近くに見える稜線に向かっ 入口の柵を乗り越えてはいる。 に草木が入ったらいけない」と て登る。 ここに車を止め、黒岳牧場の いながら、「みんなでゴーグ 阿部さんの子供は水泳 泳ぎに行く

牛糞が落ちている。 いざ登り始めると、至る所に 登ることよ

> りも、 から少し登って森の中へ。わか 分ほどで稜線に登り着く。牛が たいで、いらぬ神経を使った。 そうになる。地雷踏みゲームみ いてのどかな風景である。ここ 登山道はないが、 ちょっとの油断でも踏み 糞を避けることに気を使 およそ二十

た。ここでいつものバンザイと 三角点は雑草の中に埋もれてい 畳六畳ほど刈り払われているだ 頂上は背の高いカヤの中で、 樹に囲まれて眺望はなく、



取り付け道らしき道(アンテナ 帰りは、テレビの中継所から (黒岳山頂にて)

る。 が見えた。なかなかの眺望であ り、耶馬渓~宇佐~国東の山々 る手前に眺望がきくところがあ たので元の道を戻る。牧場に出 の巡視路)があったが急登だっ 頂上から三十分ほどで車に戻

り、 ある。 上は左手奥の植林の中のようで の先で牧場上部へ辿り着く。頂 車を置いて、柵を越えて牧場内 で閉ざされている。建物の横に 場の建物があり、その先は、柵 移動し、高橋牧場へと入る。牧 へ。牧場内の道を登っていく。 途中、自動雨量計があり、そ 次の黒木山へ。車で約五分

瞬の緊張。が、我々を横目に見 鳴りを響かせてやって来た。一 き出す。こちらの方に向けて地 団に向けて前進する。やがて、 と山頂へ辿り着かない。牛の集 代えられない。そこを通らない 不審者が進入してきたことを警 ふっと胸をなで下ろした。 ながら、すれ違っただけだった。 戒している。こちらも背に腹は がいてこちらをじっと見ている。 頭の合図?で集団が一気に動 そのすぐ手前に三十頭近い牛

約五分で三角点の標識のある山 きやすい。 林の中へ。植林は整備されて歩 り着き、中央付近にある入口ら しきところから柵を乗り越え植 我々は、牧場と植林の境に辿 牧場からの入口から

付近は平らで三角点の横に

間違いとなる。(後の調査で我 ろ意見が出て結論はこの標識が なのかと論議が沸くが、いろい 立っている。当にここが黒木山 はさらにニキロほど西方にある 々の間違いが分かった。黒木山 の台』と書かれた標柱が

なかがすいた」と言い出したの 南さんの子供が「疲れた」「お 鈍頂である。) で、牧場の景色のいい、糞のな 置いた場所へ向かう。途中、 し昼食を食べた。 いところを選んで皆で腰を下ろ いつものバンザイの後、

阿南さん家族とはお別れ。 が見え、手前には宝山、大岩扇 南さんの子供さんが限界のため 山、小岩扇山を望む事が出来た。 山、そして遠く津江の山々など 北に九重連山、涌蓋山、万年 昼食の後、車に戻りここで阿

を走らせる。 から鳴り響く実弾演習の音に、 は?とまたも不安になりつつ車 か 道四十九号線を竜門方面へと向 不審車進入と攻撃を受けるので い、途中から演習場内へ。朝 残った四人で、玖珠山へ。

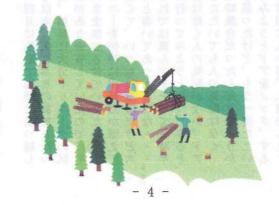
草地を一〇mほど踏み分け、 で、山頂近くへ。ここから、 風に吹かれながらおよそ二十分 そこを登る。結構急登だ。強い 高差は、八十メートル程度。 には防火帯が切り込まれていて、 道路脇の小広場に車が置く。 防火帯に出ると、 やがて右手に台形の山が見え、 玖珠山山頂 Ш

> く、楽しい登山でした。 った。低山三つながら眺望もよ きた二つの三角点の山が眺望で きるという珍しい月例登山とな だ。山頂からは、朝から登って の標識と三等三角点がある。 これで今日三つの三角点踏破

飯田、 参加者… 阿南夫妻と僕、 西 (九月二一日 安部、

車を

阿



分水嶺その6



(十月月例山行報告)

安 部 可

乗せてサーフ車は出発。別府観 野さん、初参加の今山さん、を 店を五時、西のおばちゃん、長 光港で独りの飯田パジェロ車と 落ち合う。 気は重い。サニー

ルを出たらドシャ降りになって は小降りであったのに、トンネ 合流。新仲哀トンネル入り口で 農業高校の佐藤、児玉両先生が 三五分着。一五分間待って三重 道の駅「しんよしとみ」六時 本日の登山は無理と思わ

佐藤ホンダCRV車が待ってい 止」の古い金辺トンネルあり。 っていくと、やがて「進入禁 手前を右へ、昔の金辺峠へと上 新金辺トンネルの入り口。その 時四十分到着。ここで独りの 香春を過ぎ八キロほど行くと

三菱マテリアル社有地の黄色い ゲートから入る。古い林道は、 時一〇分、小雨の中を出発。 高度差は約四八〇mである。 高度計は二〇五m、頂上まで

> すぐに柿の木のある電波塔のと ころで終わる。

それに沿って登っていく。 らけた登りなり、点々と三菱セ ちがえたことなし。) すぐにひ メント社の名入り境界杭があり、 は真似はできない。以降道をま 飯田さんは入っていく。(私に 手前のヤブへ何の躊躇もなく

具の上着を脱ぐ。(予報は二六 で小休止。ひどくむし暑く、雨 ある。ここまで約四五分。ここ たりで、炭焼き跡らしき石垣が 登っていくと、高度四一〇mあ して尾根らしきところを難なく 感でスギ林へ入る。トラバース 直進不能となれば見事な第六

がつかりする。 るがなかなか高度計は上がらず ありさま。このあたり、苦労す まるとずるずるとすべり落ちる なれば、雨後の急斜面は立ち止 の道をトラバースして、登りと ここからは難路。すべるけも

るのも不思議。 いる。大型の古いタイヤ数個あ 向こうは谷状に浅く落ち込んで 古い鉄柵にぶち当たる。 高度四五〇m地点で二m高の 金網の

道なき急斜面を直登していく。 の分らぬ金網鉄柵にぶりあたる。 と約五〇〇mの地点で再び用途 消えて、そこから直登していく ここも左に巻くと金網は消え、 「腹が減った」と言う声あり。 左に巻くとこの金網はすぐに 五七〇m地点、一一時五分、

> られず。 持ち)だが、女性軍強し、負け 多い道なき登りの難所。果たし あわただしく軽昼食。雨は止ん でいる。このあたりから岩場の てたどり着くのかと不安になる。 (もうリタイヤしたいという気

いた。 七〇m、広いカヤ野の台地に着 が緩くなり、やっと高度計は六 背丈以上のカヤに変わり、傾斜 る。やがて低木のブッシュから 何やら不思議な音が聞こえ始め くり登っていくと、上の方から 落石や転倒に気をつけ、ゆっ

思われたが、皆で手分けして一 足らず。深いカヤ野の中、三角 な物音のする方へから電波塔が 五分ほど探していると、不思議 点は到底発見できないだろうと 台地は霧が深く、視界二〇米

の駐車地点に到着。

けが登山する竜ガ鼻であった。 の中の解散。雨の中、篤志家だ 店帰着。午後七時、ドシャ降り ることなく、安全運転でサニー ず、宇佐高速を日本の叙情歌 せたサーフ車は、渋滞にもあわ 両先生とも別れて、三烈女を乗 藤秀二君は福岡へ、児玉、佐藤 下温泉(八〇〇円)で入浴。佐 て、秋晴れの香春岳を見つつ柿 (テープ) を聴きながら退屈す ここで飯田さん独りと分かれ

児玉、佐藤 (秀) 参加者…安部、 飯田、今山、 佐藤

(竜ガ鼻山頂にて)

風に鳴っていたのだ。 等三角点が淋しく端座していた 見え、行ってみるとその下に二

とはなかった。 雨が激しくなり雨具着用。しか 全員で写真撮影。気温二〇度。 くかかったのだ。持参の厚紙に しすぐに止んでその後は降るこ 〇、六m」と書き、それを手に、 マジックペンで「竜ガ鼻、六八 一度目の昼食。この時にわかに 一一時五〇分到着。四時間

二時四〇分、旧金辺トンネルロ ら慎重に下山していった。午後 ことなく、落石に気をつけなが った木の枝などのおかげで迷う につけたナタ目や赤テープ、折 一二時二〇分下山開始。登り

(金辺峠付近から見る竜ガ鼻)



ガ鼻)

十和田湖集会】【全国支部懇談会日本山岳会

十和田山(二0至, 台)

報告者 児玉章良

あり。

四〇分山頂着。「三等三角点」

台風が近づいてきたので出発 台風が近づいてきたので出発 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。 大三一便」で「仙台空港」へ。

ル」着。 | ○ | 一三時○○分着。 | ○ | 一三時○○分着。 | 一三時○○分着。 | 一三時○○分着。

「ネパール」の話だった。次のつ目の講演の途中であった。ので、部屋に入る間もなく荷物ので、部屋に入る間もなく荷物ので、部屋に入る間もなく荷物のでが、部屋に対していたとっくに講演は始まっていた

「白神山地」の報告が長引いた「白神山地」の報告が長引いたで可愛くておひねりがとびかって可愛くておひねりがとびかってたが、ちいちゃい子供の演技がたが、ちいちゃい子供の演技がたが、ちいちゃい子供の演技が

を期待していたが、準備して時 を期待していたが、準備して時 で強風と大雨だった。 を がたったのだろう、まずかっ た。料理の出てくる段取りも悪 た。料理の出てくる段取りも悪 た。料理の出てくる段取りも悪 た。料理の出てきた。酒は期待して 次々とでてきた。酒は期待して かったとおり美味しかった。夜は 日本海を回ってきた台風のせい で強風と大雨だった。



て九号」で青森県「八戸駅」へ。

時三八分発「東北新幹線はや

ないためタクシーで「仙台駅」

へ。三〇分ぐらいかかった。一

和田湖)

し、バイキング式の朝食を頂き、朝風呂につかり、登山の準備を一四日(日)五時三〇分起床。

号」にて仙台駅へ。一九時二〇

駅から一五分ぐらい歩い

次第に回復していった。一〇時次第に回復していった。一〇時八時〇〇分「十和田湖」沿岸の「子の口登山口」発。途中、「十和田湖」や「十和田湖」沿岸の「子の口登山口」発。途中、「十和田湖」や「十和田湖」沿岸の「子の口登山口まで。七時五五分着。

支部の用意したコーヒーを頂く。朝配られた超豪華なおかずの弁当を食べる。なぜか見知らぬおばちゃんからビールを頂き、られる。一一時二〇分山頂発。トチの実を拾ったりしながら一下手二〇分「宇樽部登山口」着。ここでは名物の「ごへいもちがふるまわれた。かなり予定より早かった。

窓から道路沿いに「トリカブ 窓から道路沿いに「渓谷」は観連休とあってか、「渓谷」は観連休とあってか、「渓谷」は観連休とあってか、「渓谷」は観連休とあってか、「渓谷」は観速休とあってか。「渓谷」は観光客で賑わっていた。温泉につかり、お土産を買い込み、青森がり一時間も早く一五時一五分、バスに乗り込む。秋祭りの影響がスに乗り込む。秋祭りの影響がスに乗り込む。秋祭りの影響があった。少し時間があったので、駅前の鮮魚店で阿部さんと「ホヤ」と「ビール」を頂く。と「ホヤ」と「ビール」を頂く。

て今宵の宿「法華クラブ」着。 一五日(月)。朝食を済ませ、 荷物を持って八時一〇分、タク がしに乗り込み、観光へ。「仙 台城」「伊達家三代霊屋」へ。 伊達政宗公霊屋「瑞鳳殿」は素 門達政宗公霊屋「瑞鳳殿」は素 で回目の誕生日を祝って乾杯し、 回目の誕生日を祝って乾杯し、 回目の誕生日を祝って乾杯し、

角煮」を頂く。 最後のお土産を買い込んで、 一二時四○分「JAS九三二 便」にて「福岡空港」一四時三 での分着。天気は良い。一五時二 での分着。天気は良い。一五時二 での分着。解散。楽しい青森 が行だった。

紅葉の鹿納小

安部可人

一○月二五日(土)快晴。単 ・・・・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、落石が に、タイヤ・バースト、本石が に、タイヤ・バースト、本石が に、タイヤ・バースト、本石が に、タイヤ・バースト、本石が に、のきに、で に、のきに、で に、で に、そこ に、のきに、で に、そこ に、のきに、 に、そこ から先は落石があれば車を捨て ることになるキケンあり。ゲー といら発し。 といることになるキケンあり。ゲー といることになるキケンあり。ゲー といることになるキケンあり。ゲー

○ m地点)出発。いきなり一○ m地点)出発。いきなり一○ cm地点)出発。いきなり一○ cm地点)出発。いきなり一○ cm差、二○分の急登である。 おかげで気合いが入ってあとの がは楽であった。後ろにはブナ坂は楽であった。後ろにはブナッターを二度押す。

登り、一五〇〇m稜の線分岐点、八〇m差の急坂をほいほいと



ちがよい。二五分休止。鹿納山 えて三〇m差を下ると広いコル。 は目前、 とおり二時ちょうど下山。 〇分出発。家内に書き置きした って見え、正面は夏木山。 そこから二〇分、一一時四〇分、 権七小屋谷分岐点、一四八〇m、 〇時一五分。木立の中、 一度目の鹿納山登頂。一二時一 一時一五分着。軽食をとる。 地図にある三つのピークを越 (主稜から見た鹿納坊主) 右に大崩山が台地とな 気持

今日会った八人の登山者から

が道ははっきりしていたという。 地点まで、四キロぐらいの上り 鹿納山手前の分岐、一五〇〇m 下りの難路、、気になっていた 小谷尾根一五四一 m地点から

仕方なく石塚へつきあげたと言 引き返してきたが、玉名の男は き、ザイルの二人づれが迷って がガレ場はキケンだったと言う。 ルで出会ったが、テープはある てきた元気な四人づれと広いコ を下り、権七小屋谷を登り返し この夏、三里河原で遊んだと 大崩山往復のあと、中瀬松谷 (一人はバテ気味)

いたのである。 万一のとき、伝達役を期待して が転落死したという。 のおばちゃんと下山で苦労した したのは、彼らと会えるから、 た、最近あそこで六○歳の男性 実は私が土曜日を選んで登山

地蔵岳、西

いという。素早くタイヤ交換。 ふさいだ普通車。ジャッキがな 高千穂焼酎を期待している。 人助けもした。帰途、林道を



私の無名山ガイドブックの

ンい ルートについて ショ

後年、昔のルートが有るのを知 母山頂まで行き、メンノツラを を思い出す。 で行き、メンノツラを下ったの た。その時も同じく祖母山頂ま って、そのルートをたどってみ 下った。また池原ルートはその 登ったことがある。その時は祖 く前のある冬、雪の降った後に 八丁越ルートはもう二〇年近

った。 り、池原からの古いルートを下 なり、晩秋ののある日、もう一 緒に行ってみたいと言うことに のコースを話題したら、是非一 人の山中間を誘って八丁越へ登 ある山仲間とのお酒の席でそ

時はそれが分からずに、下の白 聴いて教えて貰ったのを思い出 水(シロウズ)の民家の古老に つけることが問題で、昔行った 八丁越への登りは入り口を見

場がある。そのやや手前が登り 渡り、少し先にある三叉路を左 白水の最後の民家の下の小橋を 車一台が停められる程度の小広 ローチ林道から取り付くのだが、 に、橋を渡りカーブしながら少 行くと右に緩いカーブがあり、 メンノツラ谷ルートへのアプ やっとそれと分かる踏み

再び心地よい

沢を過ぎて

まれる。

の急な道を登 なる。林の中 の中の登りと 雰囲気の樹林

っていくと、

礫岩の累々と

道で、比較的しっかりついて分 に付けられた道は古い踏み分け

> る。そんな地面にもクルミやカ した、広い枯れ沢状の斜面とな

デなどの落葉樹がまばらに生

えていて、明るい林床だが何処

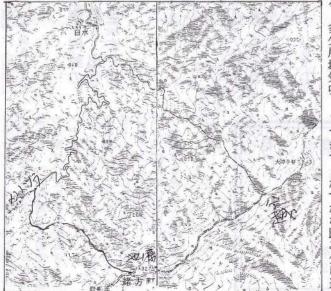
斜面の山腹となり、造林地と天 てくれる。 が続き、稜線を越えて左下がり れている。心地よい登りの傘道 ろに目印のテープなどが付けら る人がいるようで、ところどこ 登っていく。今でもこの道を登 斜面の山腹をトラバース気味に 散在する天然林の中、 やがて枯れ残った赤松が点々と 然林が交互に現れて変化を付け スギ林の中をジグザグに登り 右下がり

登ることとなる。多少崩壊気味 の枯れ沢に出て、その沢沿いに 上ある大きな岩がそそり立つ下 しばらく行くと三メートル以

鶴見や花牟礼 返ると由布、 がなく、振り わりに木々が ろもあるがま が危ないとこ の沢で、足下

並みが遠く望 九重などの山

> 味にとりながら、ジグザグに登 広い池原の山腹をトラバース気 れる。やや左(東)に向かい、 稜線である。 してきて、かすかな踏み分け道 っていくと一層スズタケが密集 段と急になり、スズタケが現 礫岩の斜面を過ぎると傾斜が



方に稜線が見えている。池原の向こうを見上げると、遙か上の るように登っていく。ところど 判然としない。とにかく直登す ころに点々と付け付けられてい でも歩けそうで、道はほとんど る目印も直登している。疎林の

ら倒れ込んだスズをこぎ分ける は上に雪が乗っていて、上方か のが一苦労であったのを思い出 のヤブこぎとなる。 このブッシュは最初登った時

進むのは容易なことではない。 ここが八丁越で、右から登って そのすぐ先にT字分岐が現れる。 来た縦走ルートと斜めに合流し が近くなり、 右手上の方に峠のスカイライン の格闘を続けていると、やがて かりしたルートが残っている。 み跡をたどるとヤブの中にしっ 全く判然としないが、丁寧に踏 替わって貰う。見たところ道は 深くなると私はその若手に入れ 後尾には元気者がいる。ヤブが 昔来た時は一人だったから孤軍 げながら、トラバース道をこぎ 上からおい被さるスズをかきあ きている道は尾平からのルート 奮闘したが、今日は三人で、最 雪が被さっていなくとも、 約三十分ほど、猛烈なスズと ほどなく池原から

> お 知 6 せ

·目的地 月 B 向坂山 三方山 (宮崎県·熊本県) 月 (1577.5m) (1684.4m) 一六日(日 行の

出 テント、シュラフ、 いにより、当日早朝 参加者同志の話し合 時〇〇分サニー出発。 更の場合もあります。 一五日 (土) 午後六 (午前三時頃) に変

支部忘年会を次の通り予定し

食事三食分等。

·月 ·目的地 日 と遠賀川との分水 岳滅鬼山(1036.8m) 英彦山 一二月 (福岡県境)(山国川 (1199.6m) 一四日(日)

出

岳滅鬼山

福岡県側登

「小松軒旅館」

TEL 0973-23-3153

紫、トリカブトの濃い紫、

ザックつめて大障子を目指すこ

ルとおつまみとカメラをサブ

々はここにザックを置き、缶ビ 大障子の岩峰が聳えている。我

目の前には覆い被さるように

程 鬼峠→岳滅鬼山 岳滅鬼山登山口→鬼 滅鬼峠→登山口 水→猫ノ丸尾→岳滅 杉→英彦山→こもり 世行の □→岳

月 日 月一八日 (日)

目的 地 ョ)、フキクサ山(1309. ガミズ山(1310.

午前五時サニー発 水嶺) (花牟礼山群)(鳴子 と阿蘇野川との分

(耳川と緑川との分水

出

お迎えして おなじみの重 一廣さんを

ています。 日時 場 所 日田市隈 空けておいてください。 とりあえず、日程だけ 者にはお知らせします。 開始時刻は後日、出席 二月一三日 (土)

(前日は支部の忘年 午前七時出発。 と岳滅鬼山)で、 翌日は一二月月例 加の予定です。 重廣さんも参 山行(英彦山

会です。)

口

願いします。 の返事を事務局までお返信用はがきで、出欠 ※ この会報と同封の

この分だと紅葉はさぞかしきれ いな彩りを見せてくれるでしょ 急な冷え込みが始まったので、 秋の残暑が長く厳しかったあと たので、木の葉の傷みも少なく 今年は台風の上陸もなかっ

湖畔に降り立てば、そそり立つ カヤの陰にひっそりと可憐な紫 うでした。 真っ赤な色を見せてくれるはず 特にドウダンツツジの赤があで 周りの木々はすっかり色づき、 たが、山頂付近はもう秋の盛り のナナカマドはまだ色が淡いよ やかでしたが、それにもまして 岩と紅葉の彩りは、さながらい でした。頂上直下にある御池の に久住高原側から登ってきまし 0 っぷくの錦絵を見るようでした。 中腹の草原にはリンドウが 一〇月中旬に九重の大船山

後

やかな紫、マツムシソウの淡い 色で咲き、ゲンノショウコの艶 ムラ 日本山岳会東九州支部報 2 200 3年 (平成1 5年) 1 0月25 日

秀 木 徳

発行者 編集者 発行所 梅 万 飯 田 勝 〒870-0021 大分市府内町1-3-1 € サニースポーツ内 戸 でロ・FAX 097-532 西 -0926

かな彩りを見せてくれるでしょ 深まれば裾野にも里にもあでや 緑が勝っていましたが、頂上で いです。 の草原はなぜか紫色が好きみた 紫など、この時期の大船山中腹オンのかすかな紫、ノビルの赤 け下ってきて、やがて十一月も 盛りの紅葉は日を追って山を駆 キセンブリの浮き出た紫、 山の中腹はまだ木々の葉は K